

1 自己評価及び外部評価結果

グループホーム あすなろ 南陽（東通り）

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成 21年 8月 10日	開設年月日	平成 18年 12月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の中で、できることは率先して頂いている。又、職員が待つ姿勢を持ち一人ひとりが少しでも自信が持てるよう支援している。週1回のミュージック・ケアはだいたい利用者の方々にも定着してきた。利用者皆様の思いを汲み取り、心豊かに過ごせるよう環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

献立は、当日利用者の意見を取り入れながら決め、利用者と一緒に買い物に行き、一緒に調理を行うなど、利用者にとって事業所が家庭の延長である様に雰囲気を作り出す取り組みをしている。居間では利用者同士がテレビを見ながら会話を行うなど、非常に温かみの感じられる事業所である。又、従来より取り組まれているミュージックケアも利用者にとっては楽しみの一つとなってきている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19-6-2F		
訪問調査日	平成 21年 9月 15日	評価結果決定日	平成 21年 10月 15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同で理念について話し合いの時間を作り私達が出来る事理念として掲げている。又その理念を作り上げていく上での個別の目標を掲げて活動している。	職員の参加で、BS法を使用し作成した。職員会議やミーティングで具体的なケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会へ参加しており、地区のお祭りに参加。夏祭りでは老人会や地区の方々の協力を頂き家族も参加できる行事になっている。	近所的美容室などへ出かけ、気さくに声掛けをしてもらえるような関係が出来ている。夏祭りには地域の老人会(高砂ボランティア)も参加してもらい開催した。大清水地区の防災訓練にも参加予定をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ活動はできていないが、推進会議等で、認知症について詳しく知りたいとの意見が出た。スタッフも含め地域の方たちと一緒に活動できる内容を検討している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議度現状報告をして理解を求め説明している。又地域の方たちよりアドバイスをもらいサービス向上に活かしている。最近防災のマニュアルが必要ではないかと意見出され検討中である。	2ヶ月に1回定期的に開催、南陽市の担当者や、地域の地区長、民生委員、老人会、ケアマネージャー等に参加してもらい、活発な意見交換をしている。最近では地区長より防災マニュアルの必要性についての提案が出された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉係長が推進会議にいつも出席して頂いているので当施設の現状を把握して頂いている。又地域包括センターの職員とも交流あり、情報交換をしている。	市の担当係長が推進会議や事例検討会などにも出席、相談にのってもらえる体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけたまま、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関に鍵を掛けることはまれにある。頻回に玄関の戸を開け外へ出てしまうとどこまでも行ってしまふ為、その方には職員が寄り添っていつも見守りしている。拘束している方はいない。	利用者が外出しそうな様子を察知して、声を掛けたり、一緒に付いて行くなどして対応している。職員交代時間は特に気を使い極力鍵をかけたままの取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は研修に参加し、会議等で伝達研修をしている。現在該当者はいないが、常に防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加により知識を深めるようにしている。該当者には、身元引受人と利用者を含め双方の意見を聞きながらトラブルの無い様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は内容の詳しい説明を行っている。今年度御家族より同意書や体制加算加算を頂くにあたり、説明等を丁寧に行っている。又御家族や本人の意向もいつでも話せるような体制を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に開き、要望等を推進会議の議案として取り上げ協議して頂いている。又逆もある。	本年5月に家族会を発足させ、家族との絆を忘れない為にも定期的に会合やイベントを行う予定。夏祭りにも参加、又10月には芋煮会を開催する予定。家族会の打ち解けた雰囲気の中からいろいろな意見をもらうようにしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換できる様レジメを作成し、提案・意見の交換ができる様にしている。又緊急に対応が必要な時は個別に聞き、必要時送りノートに記入し周知するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は毎月報告している。又個々の家庭の事情に応じ、安心して働けるよう希望休を取り入れている。半年ごと目標を立ててもらい人事考課の参考にしてている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフの力量を把握するまでは至っていないが個々のスキルアップの為、研修に参加できるよう配慮している。又平均して皆が研修にいける様配慮している。	法人内における内部研修や外部での研修に参加しており、外部研修後は伝達研修を実施もしくは資料を回覧し情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム協議会の会合に参加したり、交換実習に参加する事でネットワーク作り・サービスの向上に努めている。	県グループホーム協議会に参加し、交換実習にも参加している。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学・実調などで不安なく入所できるよう、心配な面を具体的に聞き取る努力をしている。よく聞いて差し上げ、思いを汲み取る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の聞き取りで必要な情報をなるべく多く聞き取る努力をしている。その上でできるだけ不安の無い様配慮している。又入所1週間ぐらいは御家族に様子を電話等でお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調である程度ニーズを把握し、さらにサービスの中で優先的に必要な事が提供できる様観察する目を養うよう努力している。相談内容から何をしたいのか見極められる努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく利用者様の意向を尊重し料理の仕方、昔の風習などを聞き取り、昔を思い出しながら生活したり、苦勞話を聞き共感したり、共に生活している事を感じてもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフに頼りすぎない様食事の事・買物の希望・外出の希望・病状などを伝え、なるべく出向いて頂く努力をしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人や親戚等が自由に来所出来る様に開放しており、本人が生き生きと過ごせる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友達を作られる様、利用者様同志の会話が成り立つ様中に入り良い関係が作れるよう配慮している。(一人にならない様配慮している)又気の合うメンバーを同じテーブルにしたり配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも通院時等面会したりする事もある。退所後の様子をお聞きする事もある。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設で安心して穏やかに過ごせる様折に触れ意向の確認をしている。食事や外出の希望等出来る範囲で支援している。	日々のケアの中から表情や言葉で思いを把握している。	利用者がこれからの人生をどのように暮らしたいか等、家族を交えたアセスメントを行い、又、ユニットの職員が利用者の思いや意向を共有する為の話し合いを行い利用者のより具体的な思いを把握することが、更に質の高いケアに繋がると思われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活習慣を把握し、いままでの生活を大きく変えないような支援を心がけている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムに合わせるように努めている。各チェック表で現状を把握している他日課・手伝い等日常の行動・言動を見ながら個々の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファ・3ヶ月ごとのモニタリングで個々の状態を把握・検討している。担当を決めているが皆で意見を出し合い計画に反映するよう心がけている。	月一回のカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリングで話し合い、計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケースを記入し職員間で申し送りを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載）</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>なじみのパーマやにで掛けたり、地域の商店で買物したりして馴染みの生活を忘れない様心がけている。又本人の出来る範囲内で手伝って頂きその人らしい生活を送って頂けるよう支援している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・御家族の意向を優先し、かかりつけ医へは受診報告書を利用し、状況説明に利用している。又必要に応じ個々の状況を説明できるよう努めている。</p>	<p>通院は家族対応を基本にしているが、難しい場合は職員が同行し、受診後、受診報告書を作成し家族に報告している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は配置していないが、往診して頂いている看護師さんへは状況報告・連携を密にしている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院するときは家族の協力の下紹介状等を依頼し、対応がまごつかないようにしっかり対応するよう心がけている。退院時はサマリーやケアカンファを依頼し入所が安心して行われるよう努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時意向確認を取らせて頂いている。又見取りに付いては事業所内で検討中だが、まだ体制はできていない。</p>	<p>入所時に確認書にて家族の意向確認を行っている。ターミナルに関しては法人全体で検討していく予定にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の方をお呼びして救命救急の講習を受けている。応急手当・AEDの使用方法を学んだ。緊急連絡網を作成し電話の近く見えるところに貼っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間を想定した避難訓練を行っている。防火管理者でなくても県主催の訓練学校の研修に参加している。今後交替で行く予定。地域では今年10月に市主催で合同防災訓練に参加する予定。	年2回定期訓練(夜間想定)と同時に通報訓練も行っている。10月には市主催の大清水地区の合同訓練に利用者も参加する予定。		
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉を選んで話しかけるようミーティングで話し合いをし、一人ひとりに合わせた対応を心がけているがやや不足気味。申し送りは利用者様の前では行わない。	「自分がされて嫌なことはしない」というモットーで、気づいた時には管理者はその都度(言葉使いや、態度)注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるまでゆっくり待つか簡単な声かけで本人の意向を汲み取るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースで生活して頂くために声かけにより今何をしたいのか・体調は悪くないかなど状況を把握したり思いを引き出すように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際好みの洋服を選んだり化粧をしたり出来る様声かけ・見守りなど個々の特徴が出る様支援している。又自分でコーディネートしたときはみんなの前でほめたりして喜んで頂く様に心がけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は主に職員が行っている。食べたい食材をお聞きし献立に反映している。盛り付け・配膳・片付け等職員と一緒にしている。	利用者の意見も一部取り入れながら献立を作成している。利用者と食材の買い物を行い、下ごしらえや米研ぎ等も利用者が主体で行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックをしたり体重・排便など状態把握は常に心がけている。ペットボトルを部屋に置き飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。本人の状況により介助の割合は異なるが、出来ることは職員が待つ姿勢を大切にしている。夜間はボリデントで消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中排泄の失敗のない方には下着で対応している。夜間PTトイレ使用の方は異動時転倒しないよう時間で巡視したり物音に敏感に「反応し」予防に努めている。	排泄チェック表を利用し、全員トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く飲んで頂いたり、個々の状態にあわせ下剤の種類や量を検討したり本人の苦痛にならないよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間については以前より幅が持てるようになったが、どうしても職員の配置の都合で動いているくらいがある。今後大きな課題になるが対応は検討に入っている。	基本的には週2回～3回、14時～16時の間でローテーションを組みながら対応している。利用者の希望の対応に関しては必ずしも対応できていない。	現在、利用者の希望に対応できるよう、検討中であるが、出来るだけ早期のうちに実施されることを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や個人の気分・習慣等により自由に休息して頂いている。夜間眠れない方にも無理せず落ち着いてから休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を頂いており、間違いなく服薬するよう2人でこえ掛けあい飲み込みまで確認している。症状が変化したり疑問な点が出てきた時はそのつど医療機関に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの人生を振り返り、得意分野を聞き取り生活を楽しくて頂く様工夫・声かけをしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	GHの裏の畑・近くの公園・買い物など日常的に出かけている。又行事として季節の花を見るためバスハイク等を計画している。	日常は天気の良い日は近くの公園を散歩したり、買い物などに出かけている。行事としては花見のバスハイクを計画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的には職員・ご家族が管理している。御祭り時小銭を賽銭として投げたり、買い物をしお金を使う機会を設けている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のできる方には職員が配慮し、気軽に連絡が取れるよう配慮している。又季節のお便り・はがき等書ける方には個別にし満足していただけるよう配慮している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下・部屋等に花をいけ、季節感が感じられるよう心がけている。みんなでホールで穏やかな時間が過ごせる様置等も活用している。危険が無いが常に気を使い心がけている。	ホールでテレビを観賞しながら、利用者同士会話をするなど落ち着いた居心地のよい環境となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやリビングにソファを置いたり、みんなで楽しく過ごせる様場の設定に配慮している。また個々のプライバシーを守れるよう排泄時・入浴時等配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様本人の使い慣れた物を自由に持ち込めるよう入居時説明している。本人様のなじみの習慣や物で安心して生活出来る様配慮している	ベットや家具はその人が利用しやすいように、高さ等に工夫がなされている。個人の品々も持ち込まれていて、家庭的な雰囲気を出すように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に合わせてベッドや備品など移動したり工夫している。トイレの配置も合わせて工夫し心地よく使用して頂けるよう心がけている。	/	/